

第211回 番組審議会

1. 日 時 平成24年4月10日(火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 12名  
出席委員数 10名(欠席委員数 2名)

○ 出席委員(敬称略)

中村 慶久(委員長)

—以下50音順—

斉藤 純

斎藤 雅博

東海林 千秋

菅原 正二

藤原 保雄

村上 幸子

八木橋 伸之

役重 真喜子

吉田 浩次

○ 会社側出席者(7名)

佐藤 滋樹(代表取締役社長)

小原 忍(専務取締役)

藤澤 利憲(常務取締役)

前田 秀男(取締役編成技術局長)

藤原 銀司(取締役営業局長)

君沢 温(報道局報道部部長)

藤堂 光隆(報道局報道部)

○ 事務局 村田 重昭

#### 4. 議 題

mit 報道特別番組

復興への理想と現実 ～震災から一年 いま被災地では・・・～

平成24年3月10日(土) 16:30～17:25 放送

#### 5. 議 事 概 要

今回は3月10日に放送した「mit 報道特別番組 復興への理想と現実 ～震災から一年 いま被災地では・・・～」を審議しました。議事の概要は以下のとおりです。

##### ●岩手めんこいテレビ 君沢プロデューサーの説明

- ・東日本大震災の発生直後から1ヵ月、3ヶ月、半年、そして今回の1年と、震災関連の特別番組を制作・放送してきたが、1年間に過ぎて、伝えるべき事が加速度的に増えて来ていると感じている。1時間という限られた放送枠の中で、伝えるべき事の中から何を番組で取り上げなければいけないのか、それが大きな悩みで、いろいろ議論した。その結果、1年経っても大きく変わっていない被災地の現状を伝えようと考えた。そして、どうしても被災者や被災地と内陸部とで温度差が生じがちなので、忘れずに共に歩んで行く事を確認する番組にする。この2つをコンセプトに掲げた。

##### ●岩手めんこいテレビ 藤堂ディレクターの説明

- ・被災地に寄り添った報道とは何か、ということを中心に考えながら番組作りを進めた。
- ・「生活再建」、「水産業」、「支援」、「進まない街づくり」の4つのテーマを設定した。今まだ進んでいない部分、なかなか声をあげられない人たちに焦点を当て、現状を伝える事で、今の被災地の状況が伝わるのではないかと考えた。
- ・「街づくり」のパートでは、各市町村の事も触れなければならなかったのですが、深く掘り下げられなかった。

- ・心がけた事は、報道に携わる我々も含め、県民の皆さんに、被災地、被災者を忘れないという事をもう一度思っしてほしいと思い制作した。

#### ●出席委員からの意見・感想

- ・硬派の姿勢で、課題を具体的かつ丁寧に真正面から取り上げていたのには好感が持てた。
- ・4つのテーマのそれぞれの現状がよくわかり、問題点と理想のギャップがかなりあるということを感じた。
- ・復興にはほど遠く、長期的支援の必要性をあらためて考えさせられた。
- ・陸前高田からの中継によって、将来の盛土の様子などが具体的に理解できた。
- ・ひとつひとつのテーマの裏にいる悩み苦しんでいる人間像を映像という力をもって見せたというところが成功している。
- ・番組の最後に流れた海に向かって声を上げる子供たちなどの、その希望に溢れたシーンが良かった。
- ・1時間番組で4つのテーマは詰め込み過ぎだった。
- ・1年経って何が問題かを浮き彫りにした良い構成だったが、一方でなぜそのような状況になっているかという解説や、二重ローンや雇用のミスマッチなどの詳しい解説が欲しかった。
- ・スタジオの画面が全体的に暗かった。もう少し明るくても良かったのではないかな？
- ・被災地の厳しい現実を風化させないためにも、報道の役割は本当に重要だ。

・今後も被災者に寄り添った番組を放送してほしい。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置  
特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

\* 平成24年4月11日（水） 産経新聞 東北版

\* 平成24年4月28日（土）午前4時30分から4時45分まで「めんこいテレビ番組批評」内で放送

\* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項  
特になし